

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一1:9 「神との交わり」

[9] 「神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました」

この節は二つの大切なことを教えている。第一は「神は真実である」という事実。この「真実」ということばの原語ピステスには、「信用できる」「当てになる」「確かな」という意味がある。すなわち神は信用できるお方、信頼した者を決して裏切ることのないお方、約束を守る確かなお方であるということが教えられる。神はアブラハムとの約束を守られた。→創世記17:7 イエス・キリストを信じる信仰によって私たちはこのアブラハムの祝福にあずかっている。神がモーセに言われたことば→出3:10 は、そのとおりになり、モーセは出エジプトの指導者となった。主は長血をわずらっていた女の信仰を裏切るようなことをせず、その病をいやされた。→マルコ5:27～29 神は必ず約束を守られ、信じる者、信頼する者には豊かに答えられ、約束されたことは必ず実現する。それゆえこの真実な神が救いに召してくださったということは、その召し、救いは確実であるということである。→エペソ1:4、ローマ8:28～30

第二は召された者は「神の御子、主イエス・キリストとの交わりに入れられた」という点である。「交わり」の原語コイノニアには共有という意味もある。→使徒2:44 それゆえ、神によって救いに召された者は、神の御子イエス・キリストと人格的な交わりを持つ者とされたということとともに、イエス・キリストとの共有状態に入れられたということになる。私たちには何もなくとも、主イエスがすべてを持っておられる。必要なものはすべて主からいただくことができる。それが神との交わりの意味するところなのである。そして、それはまた私たちの持っているすべては神のものであるということでもある。人格も能力も所有物もそして私たち自身も神のものである。I コリント6:19～20には次のように書かれている。「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないことを知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい」

自分のからだ、自分の生き方によって神の栄光を現していく。これこそ神との交わりを持つ者のなすべきことである。人となってこの世に来られた神は、私たちの弱さ無力さをよく御存じで、そのような私たちをイエス・キリストにあって義とし、ご自身との交わりのうちに入れ、慰め励まし、強くし、力を与えてくださる。

私たちを召してくださった神は真実で信頼できるお方である。この真実な神との交わりのうちに、私たちは慰めや励ましや力をいただき、強くされ、最後まで信仰の歩みを全うすることができるのである。